

# 農業委員会の活動事例（長野県上田市）

## 【地域の概要】

- 上田市は、長野県の東部に位置し、中央に千曲川が流れ、菅平・美ヶ原の雄大な二つの高原に囲まれた歴史と文化のまちである。
- 主要作物は、標高差を活かした野菜栽培のほかに水稲、果樹、きのこなど営農類型は多岐にわたっている。

## 【農業委員会の概要】

- 選挙区：8選挙区
- 委員数：47名（うち選挙委員40名、選任委員7名、女性3名）
- 部会数：3部会（農地部会、農政部会、振興部会）
- 事務局：4事務所 職員数19名（うち兼務職員13名）
- 平成20年4月1日から農地法関連の権限移譲を受け、申請から許可までの期間短縮、迅速化及び申請書類の簡素化を図っている。
- 独自の取組みとして、農地権利取得後の耕作状況調査、転用許可後の着工状況を実施している。
- 市の「人・農地プラン」の作成・見直しにあたり、その推進主体となっている上田市農業支援センターの一員として積極的に関与している。

## 【遊休農地解消に向けた取組】

- 陣場地区ワイン用ブドウ団地造成事業

上田市丸子地域の陣場地区は、古くは桑や薬用人参が栽培されていたが、養蚕業の衰退、連作障害、価格の低迷、農業者の高齢化等により約25haのほとんどが遊休農地となっていた。

地元では陣場台地の耕作放棄地再生・活用方法を模索していたところ、国内有数のワインメーカーであるメルシャン(株)が自社醸造用ブドウの栽培地を探しているとの情報を得、地元区長、農業委員、議会議員等を中心に平成12年度に陣場地区土地利用研究委員会（現名称：陣場台地研究委員会）を組織し、地区内農地の有効活用の方向性を検討する中で、メルシャン(株)の直営ブドウ栽培団地の受入を決め、受け入れるための条件や地権者の合意を図るべく活動を開始した。

地権者約100名の同意のとりまとめに奔走し、平成14年度から平成19年度にかけて21haのブドウ団地を造成し、メルシャン(株)が設立した「農業生産法人ラ・ヴィーニュ」に県農業開発公社を介して農地貸付が行われ、遊休農地は見事に蘇った。

